

シロイチモジヨトウ情報第2号（野菜類、花き類、ダイズ）

令和8年10月5日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

フェロモントラップの誘殺数が6地点中5地点で多い～やや多い！ 今後のほ場での発生に注意してください

本虫については、7月3日付けで令和8年度病虫害発生予察注意報第5号を発表しましたが、フェロモントラップにおける誘殺数が複数地点で多い～やや多い状況のため、今後のほ場での発生に注意が必要です。

1 ほ場における発生状況

9月下旬のキャベツほ場（10地点20ほ場）で行った巡回調査では、本虫の寄生株率は0.35%（平年2.32%、前年0.45%）で、やや低い状況でした。

2 フェロモントラップにおける誘殺状況

県内6地点に設置したフェロモントラップのうち、5地点で直近1か月の総誘殺数が多い～やや多い状況です（図）。

- ・田原市②（キャベツほ場）では1,523頭（平年744頭、前年740頭）と過去7年間と比較して**最も多い**。
- ・田原市①（キャベツほ場）では1,273頭（平年1,003頭、前年710頭）と過去10年間と比較して**3番目に多い**。
- ・豊橋市（ハクサイほ場）では2,455頭（平年1,532頭、前年1,489頭）と過去9年間と比較して**2番目に多い**。
- ・西尾市（ダイズほ場）では1,460頭（平年1,069頭、前年1,250頭）と過去7年間と比較して**2番目に多い**。
- ・長久手市（農総試内）では649頭（平年219頭、前年239頭）と過去10年間と比較して**最も多い**。

3 今後の予測

10月1日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高いと見込まれています。本虫の増殖に適する天候が予想されるため、**ほ場における発生が増加する可能性**があります。

4 防除対策

- （1）分散前の幼虫の集団や卵塊は、見つけ次第捕殺する。
- （2）齢の進んだ幼虫には薬剤効果が低下するため、若齢幼虫のうちに防除する。

また、一部の殺虫剤に対し感受性の低下を確認しているため、薬剤選択は指導機関に相談する。

参考：農林水産省農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

- （3）同系統の薬剤の連用は避け、異なる系統でのローテーション防除を徹底する。
- （4）ほ場周辺の雑草は増殖源になるため除去する。

(5) 施設栽培では成虫の飛び込みに注意し、開口部を防虫ネットで被覆する。

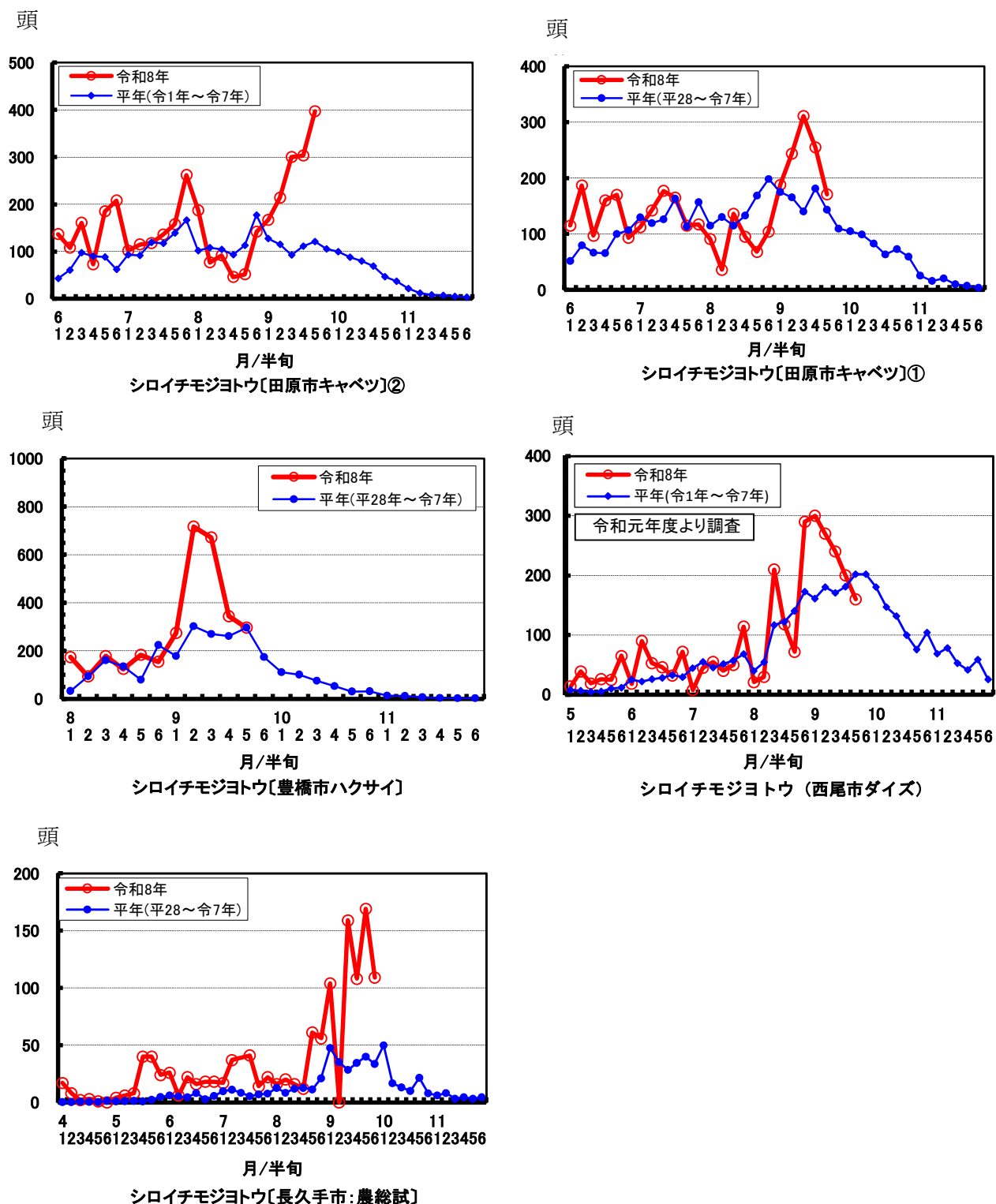


図 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウ成虫の誘殺状況